

歐米工事視察雜感

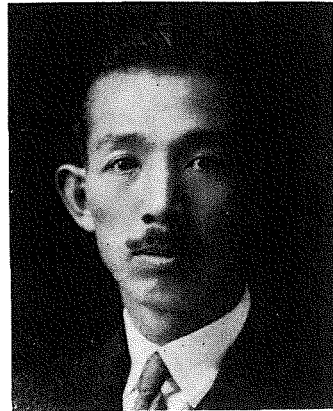
錢高組長 工學士

錢 高 作 太 郎

我が工事書報の信條は『眞實に工事に努力した人は他の工事を視察するに當つて又眞實の價値を掴むものである。唯漫然と澤山の報告書を作り又未徹底な視察談を得々と語る事は視察の能事でない。生きたる事實に觸れて來なければならぬ而して其處から湧き出る實行の確信と努力は必ず人類の文化に一滴の血潮を與へるものである』と云ふ我社の宣言を思ひ出しながら記者は錢高氏の事務所へ出掛た、氏の視察談を聞く可く初夏の日ざしは麗らかに社長室に投げかけて居る。(N生)

× × ×

淺學の私が殊に短日月の旅行でしたから到底御參考になる様なお話しは出來ませんと冒頭し謙遜な態度で氏は次の如く語る。コースは桑港、シャートル、市俄古、華府、紐育、それから倫敦、獨逸、佛蘭西、瑞西、伊太利、印度を経て歸朝したのですが、就中米國殊に太平洋沿岸に一番長く滞在しました。從來海外視察者は大抵(特殊の用務を帯びた人は別として)は一氣に紐育目指して行く人が多いこれは排日其他國際的感情に基因するのですやうが、私は私の立場からスケールの大きい(東海岸に比し)太平洋沿岸で出來得る限り詳細に幾多の工事を視察しました。それに太平洋沿岸には米國生れの邦人で大學(米國)を出た人々が割合に多く、そして各地の現場に働いて居るので私は主としてそれ等の人達と意見の交換をし、又其人達の紹介でそれからそれへご連絡がつき實際的に多く有益に視察研究し得る事が出來ました、その意味で私は比較的長く滞在したのです。それに流石は機械萬能主義の國だけにみんな小さな工事でも機械力ばかりです、併しそれは日本の勞働者とは違つて總べて機械使用には熟練して居ます



Mr. Sakutaro Zenidaka, President of Zenidaka Gumi.

最近の 錢 高 作 太 郎 氏

し又勞金などは到底日本の比で有りませんが確かに能率的です、が國情も異なり經濟的に乏しい而も勞銀の安い我國に直ちに其儘を受入る事は餘程考へなければならぬのですが我國目下の現状は何うです、殊にですね、機械力の使用價值さへあまり知らない人々が一も機械二も機械と宛然機械の亡者の様に(多少語弊あるかも知れませんが)そして以上の點を少しも考慮する處なく只徒に機械萬能を高唱力説し、能率經濟を無視して事足れりさ得々として居る人が少なくないのを今更ながら考されました。要するにあまり藥が利き過ぎたのでせう。それから歐米を通じて、大いに私共が感心したのは各國人が異口同音的に自國産のものは外國のものより遙かに優れて居るを確信して外國人に誇りつゝ使用して居る事です、此一事は何んでも舶來と云へば製品の善惡に拘らず總べてよいものご過信し自國品を劣等視して居る我同胞は此點を大いに反省して欲しいご今度の旅行で益々其感を深くした次第です。其他警察官が民衆に理解のある點や、工事上の面白い話しもあります長くなりますから次回に譲りませう。